

平成20年1月

平成19年	10月	～	12月期	実績
平成20年	1月	～	3月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

目 次





































業況天気図	2
全産業の推移	3
製造業の推移	5
建設業の推移	9
小売業の推移	13
サービス業の推移	17
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	21
〔集計資料〕	






D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

業 況 天 気 図

	平成18年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	平成19年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	平成20年 1～3月
製 造 業	 曇	 曇	 薄曇	 曇	 薄曇	 薄曇	 曇	 曇	 曇
建 設 業	 雨	 雨	 曇	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 曇	 曇	 雨	 雨	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨

D I 値	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

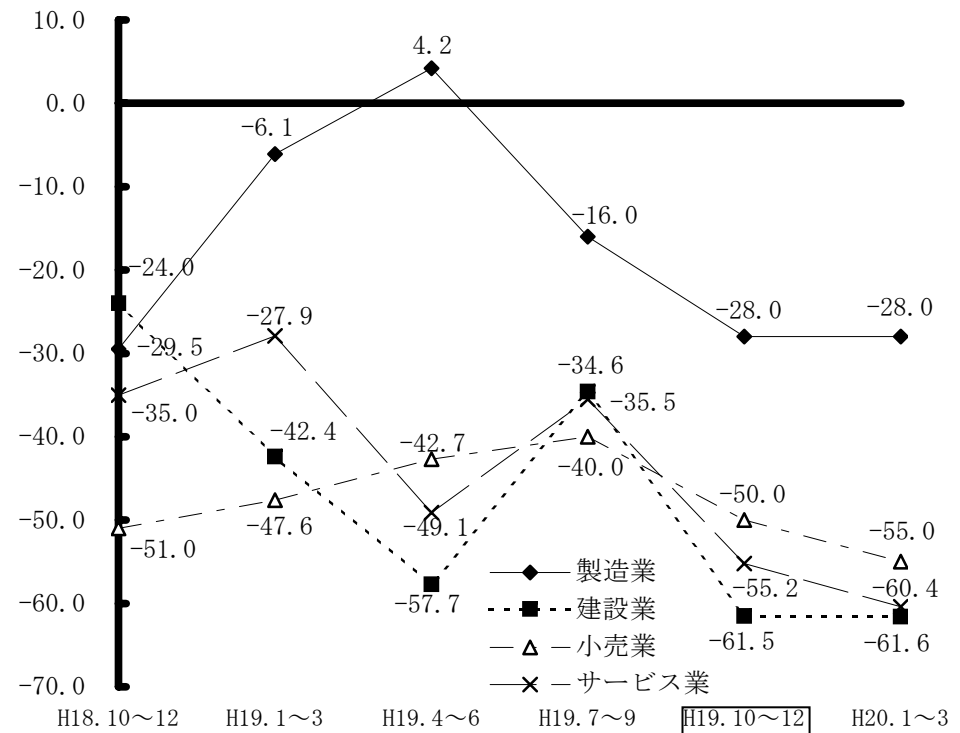
全産業の推移

— 前年同期比 —

売上高

今期の産業別売上高D・Iは、全業種で10ポイント以上と大きく下降した。特に建設・サービス業は、上昇、下降を繰り返しており、不安定な状況が続いている。

来期予想では、製造・建設業で今期並みに推移するほかは、小売・サービス業は、更に低下で推移すると見る向きが強い。



(見通し)

※建設業の売上高は完成工事額

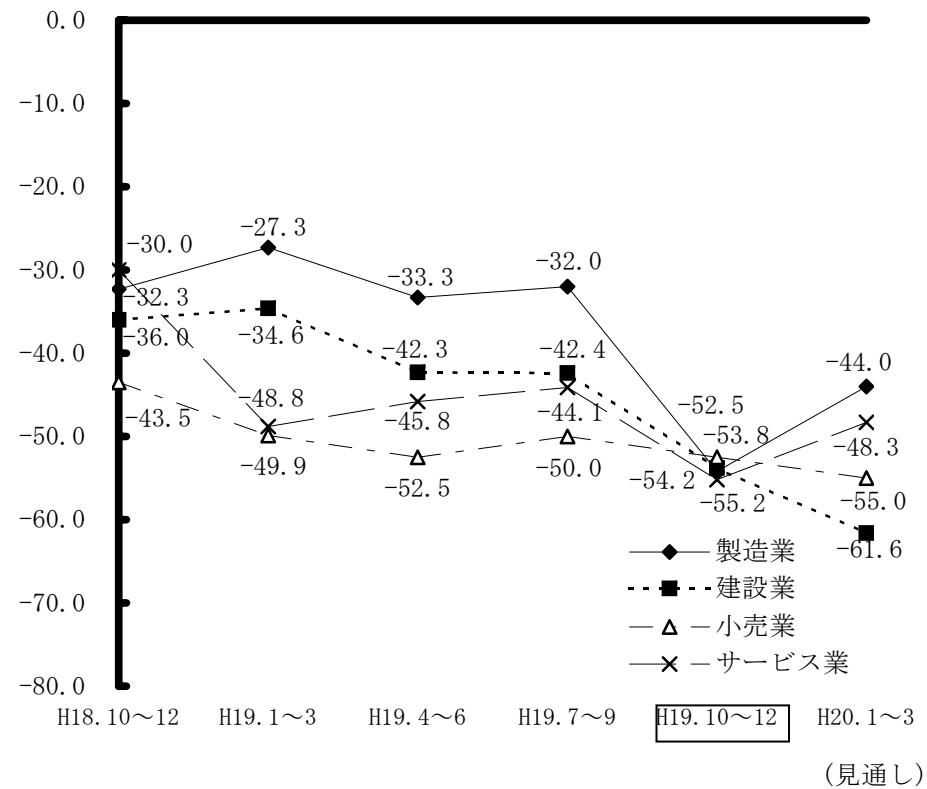
全産業の推移

— 前年同期比 —

採算

今期の産業別の採算D・Iは、全業種が下降となった。全産業とも依然厳しい傾向を示し、厳しい状況が窺える。

来期の見通しは、建設・小売業が更に低下する見通しであるが、それ以外の製造・サービス業はいずれも上向きと見ている。



※採算は各業種とも経常利益

製造業の推移

— 前年同期比 —

売上高

<今 期>

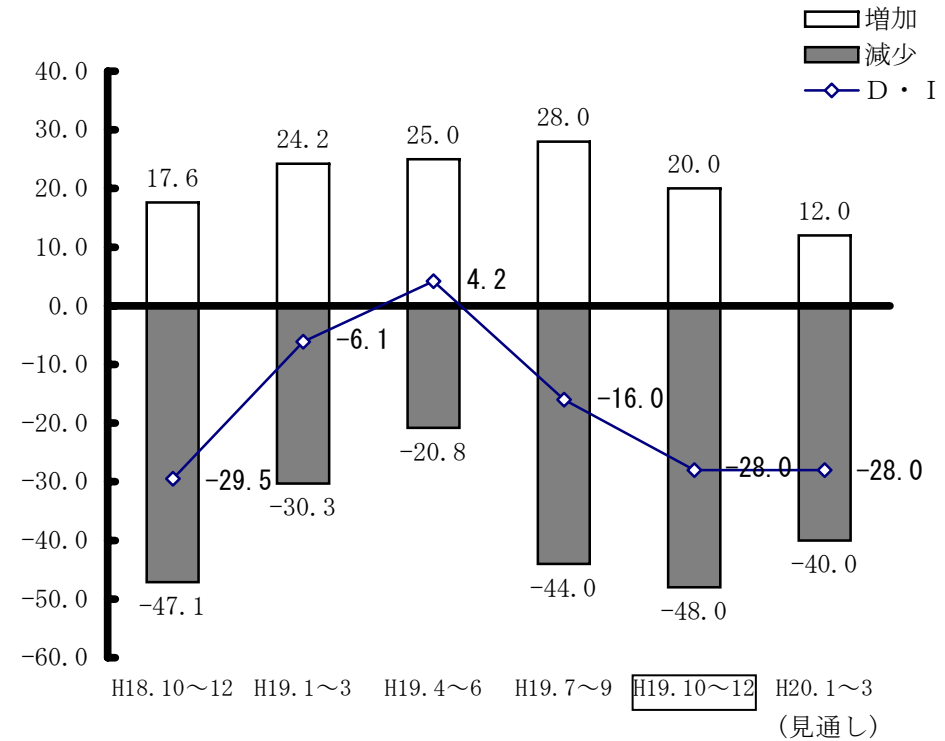


<来期見通し>



製造業の売上高D・Iは、前期から12ポイント下降した。

また、来期の見通しは、今期並みに推移し、厳しい状況が続くと見る向きが強い。



製造業の推移

— 前年同期比 —

採算

<今 期>

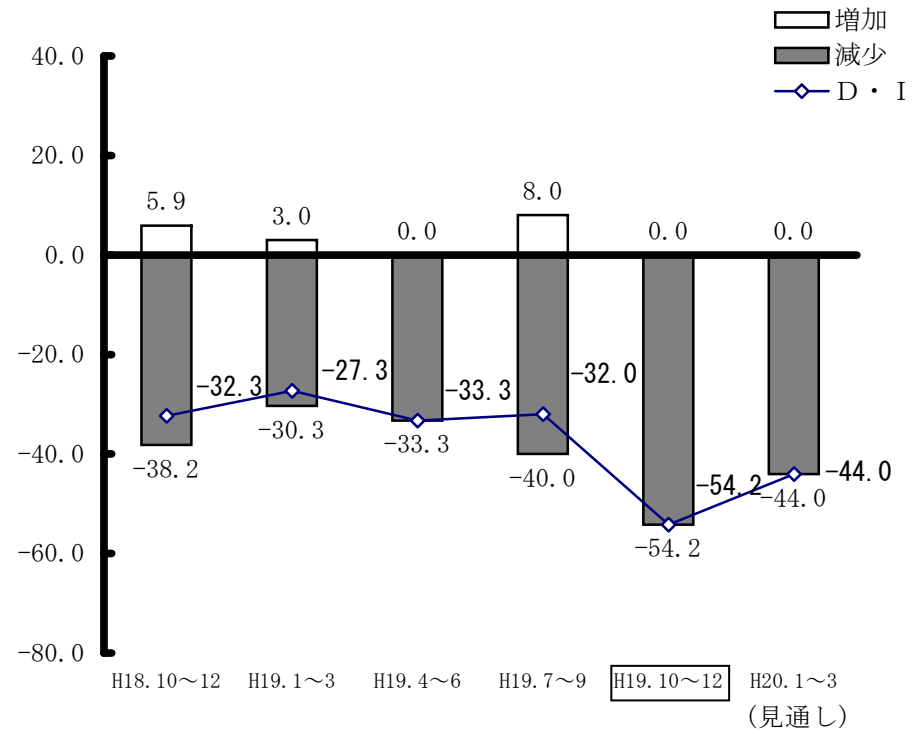


<来期見通し>



製造業の採算D・Iは、前期から22.2ポイント下降した。

また、来期の見通しとして10.2ポイントの上昇となっている。

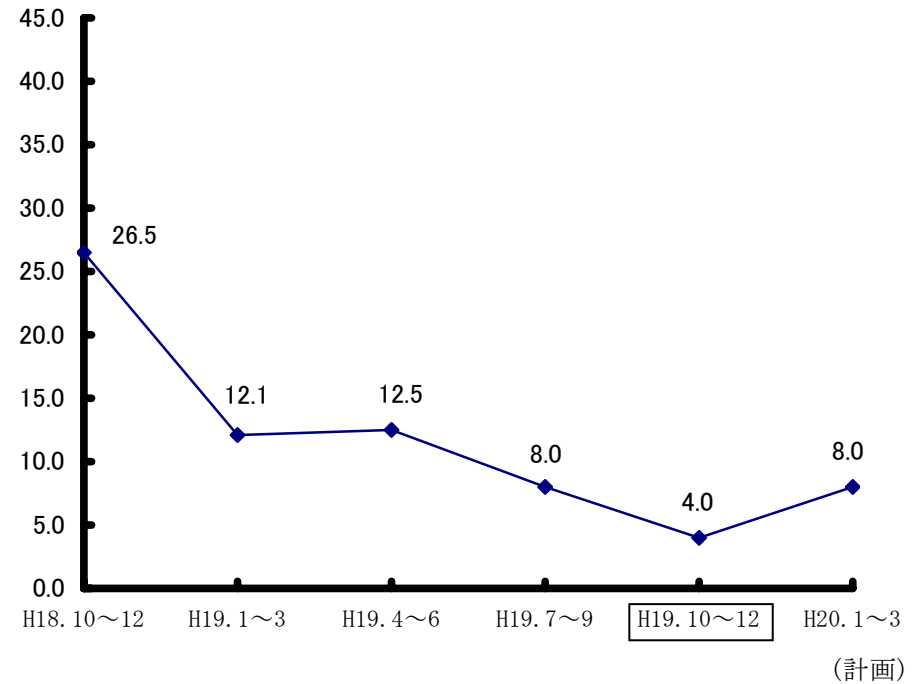


— 前年同期比 —

設備投資

製造業における今期の設備投資は、前期から4.0ポイント下降した。

来期の設備投資計画は、今期より4.0ポイント上昇し、前期水準並みに見込んでいる。

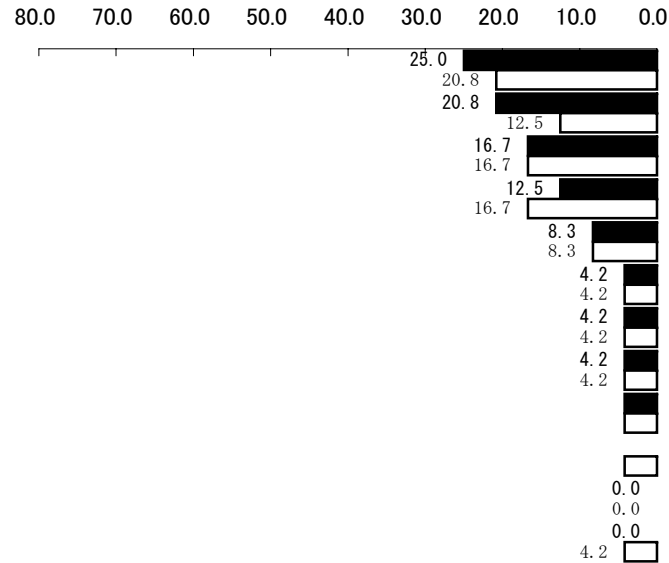


経営上の問題点

岩手県 製造業

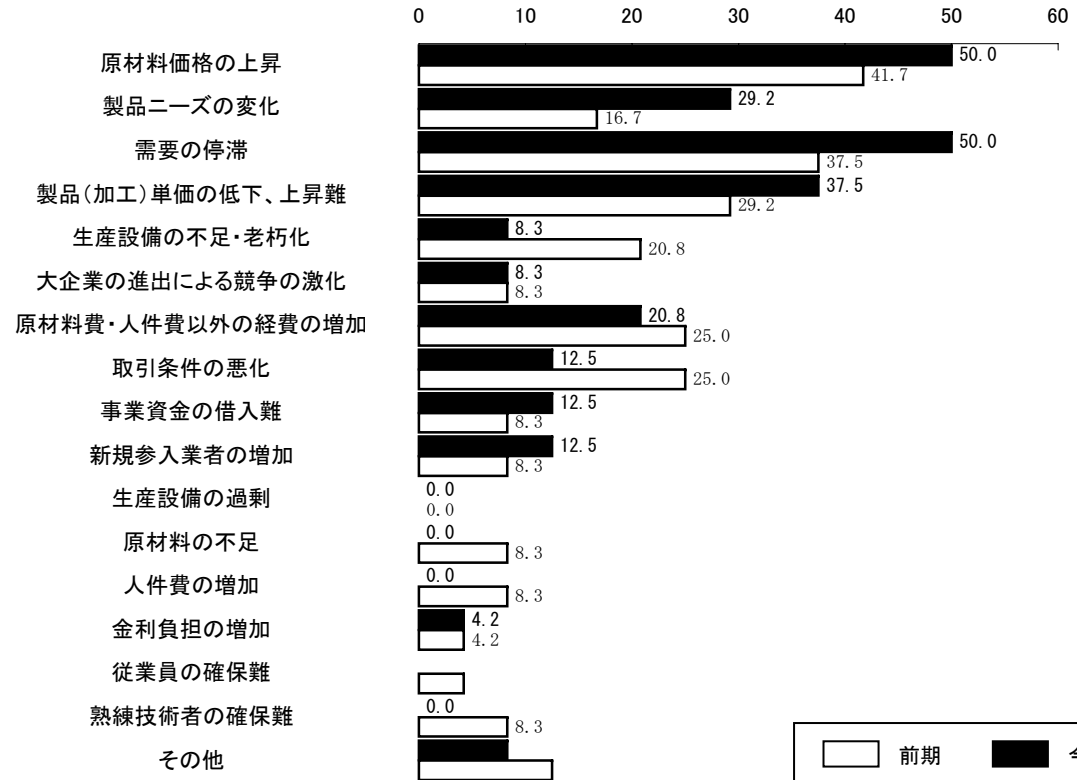
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点



1位~3位の問題点

(目盛: %)



□ 前期 ■ 今期

建設業の推移

— 前年同期比 —

売上高

<今 期>

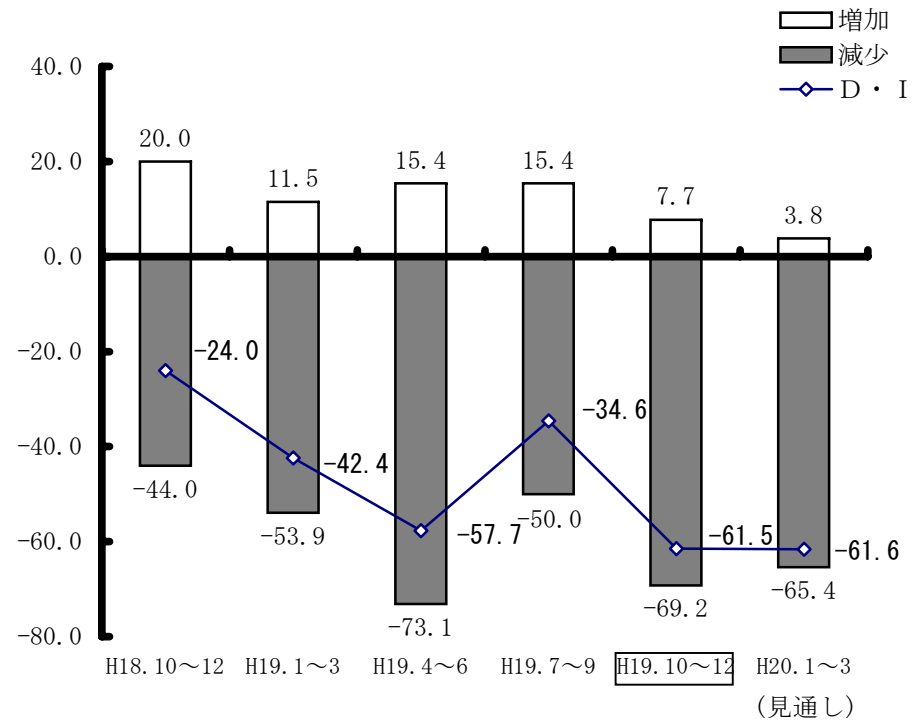


<来期見通し>



建設業の売上高D・Iは、26.9ポイントの大きな下降となった。

また、来期の見通しは、今期並みの見通しで、厳しい状況が続くと予想している。



※建設業の売上高は完成工事額



建設業の推移

— 前年同期比 —

採算

<今 期>

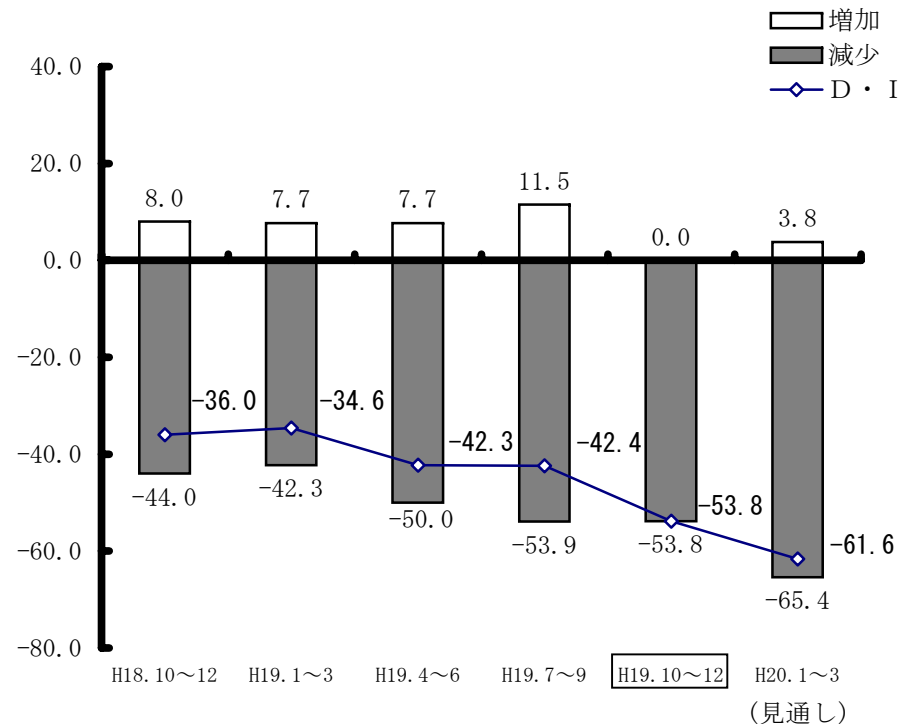


<来期見通し>



建設業の採算D・Iは、売上高と同様に11.4ポイント下降した。

また、来期の見通しは、7.8ポイント更に下降する見通しで、業界の厳しさが窺われる。

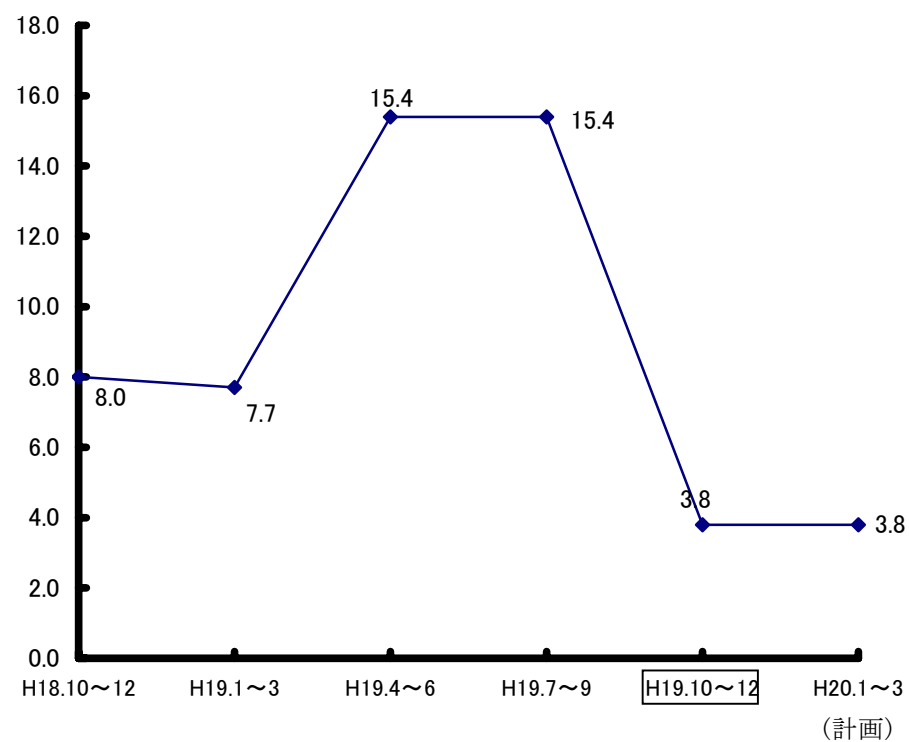


— 前年同期比 —

設備投資

建設業における今期の設備投資実績は、11.6ポイント下降し、売上高・採算と同様に大きな下降となった。

来期計画は、今期同様低水準で推移すると見ている。



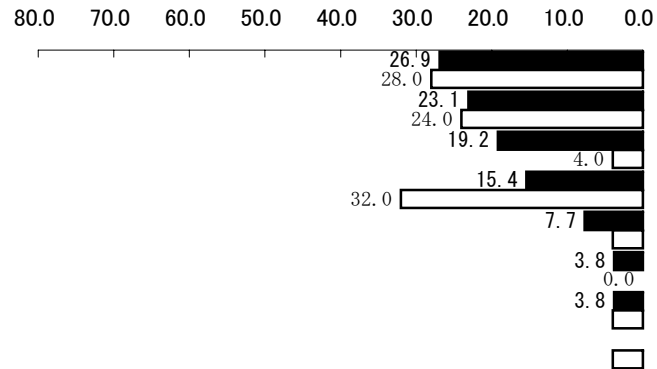
建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

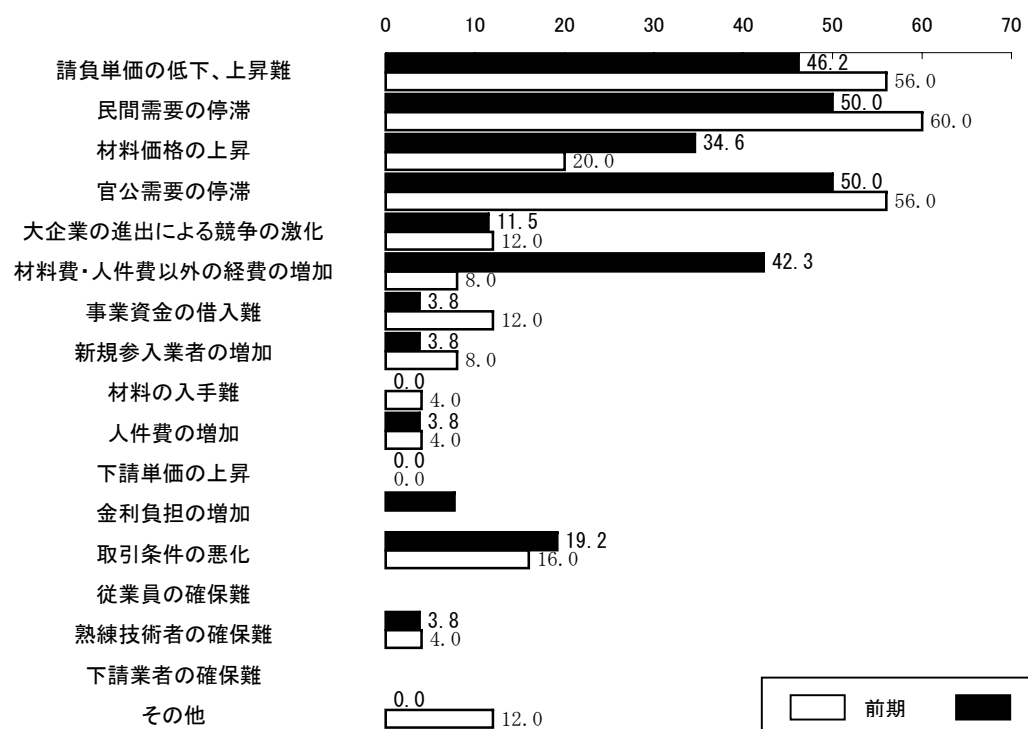
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点



1位~3位の問題点

(目盛:%)



□ 前期 ■ 今期

小 売 業 の 推 移

— 前年同期比 —

売 上 高

<今 期>

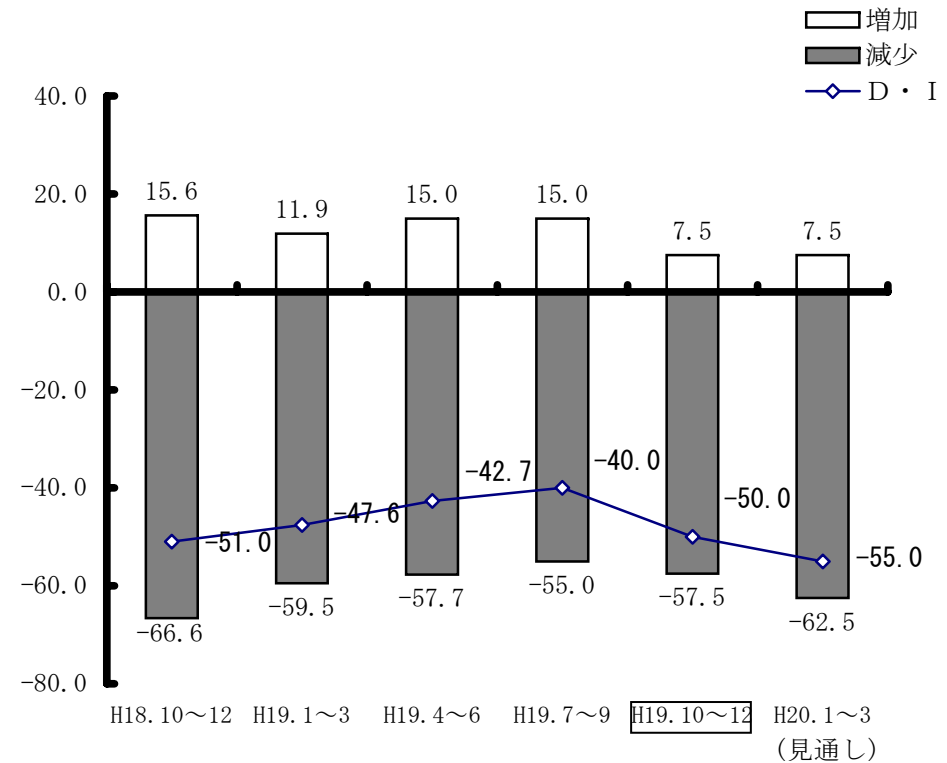


<来期見通し>



小売業の売上高D・Iは、10.0ポイント下降した。

来期見通しは、5.0ポイント更に下降する見通しで、依然厳しい状況が見込まれる。



小売業の推移

— 前年同期比 —

採算

<今 期>

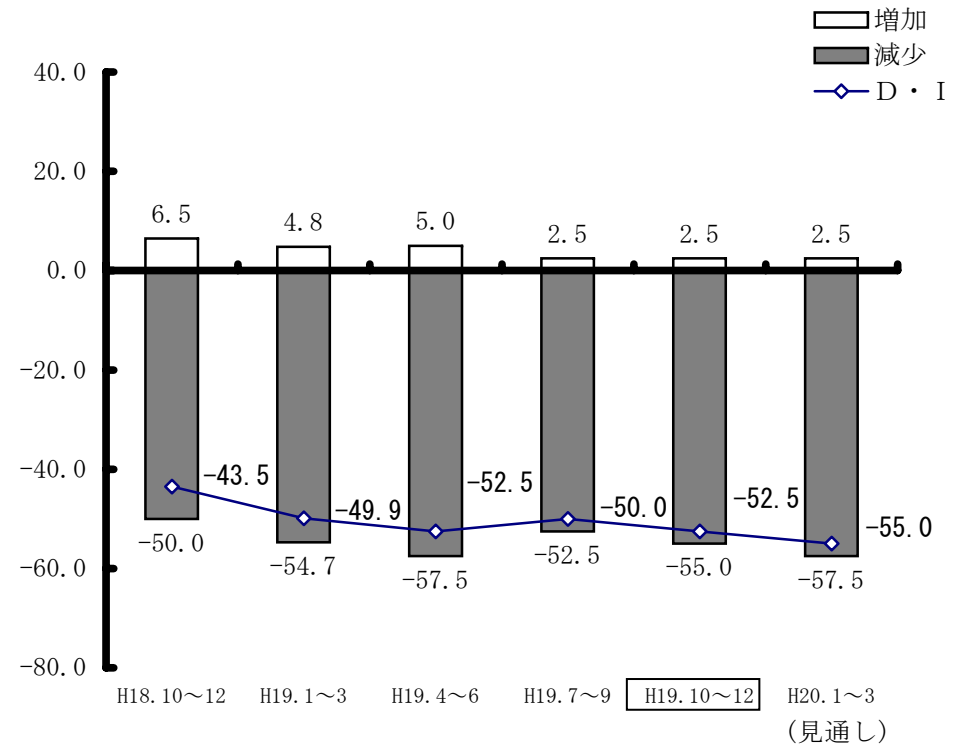


<来期見通し>



小売業の採算D・Iは、売上高と同様に、2.5ポイント悪した。傾向としては、マイナス50ポイントを境にほぼ横ばいで推移している。

来期予想は、更に2.5ポイントの下降が見込まれ、依然厳しい状況が続くと見ている。



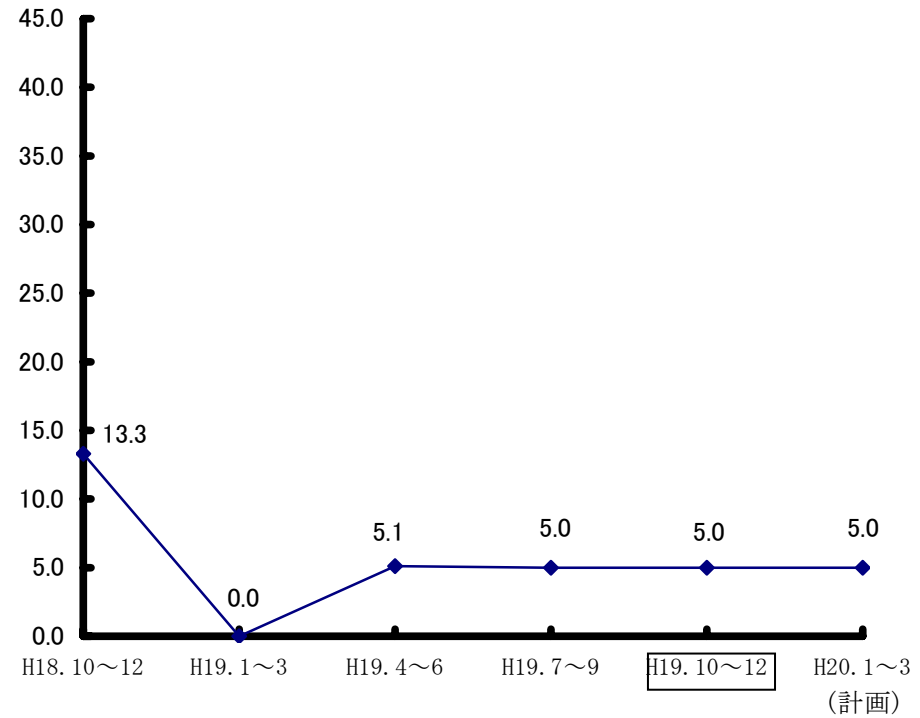
小売業の推移

— 前年同期比 —

設備投資

小売業における今期の設備投資実績は、前期と同様であった。

来期の計画については、今期と同様に見込んでいる。

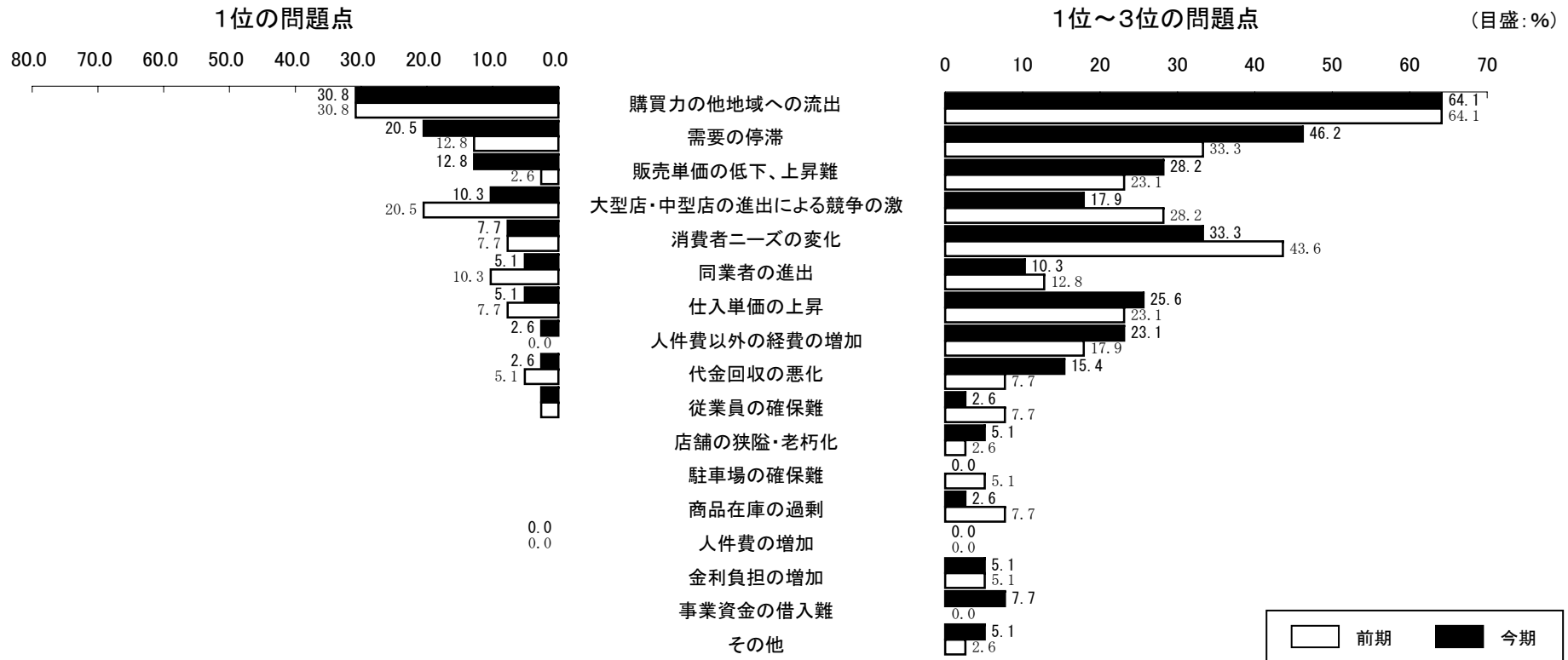


小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



サービス業の推移

— 前年同期比 —

売上高

<今 期>

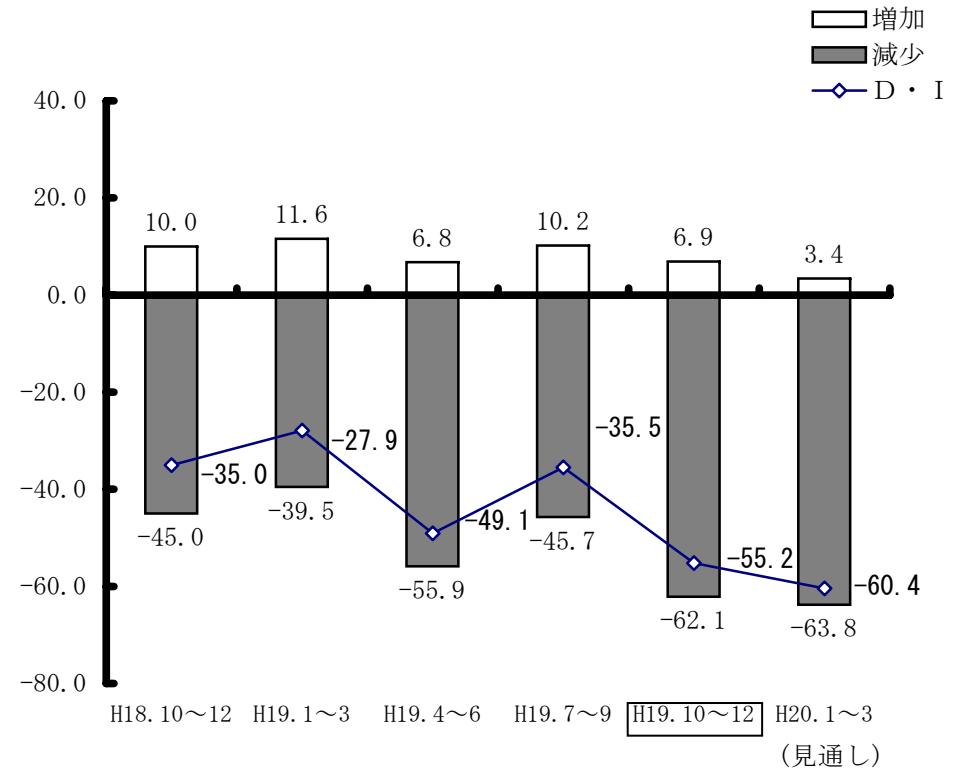


<来期見通し>



今期のサービス業の売上D・Iは、19.7ポイントと大きく下降した。

来期の見通しについても、更に5.2ポイント下降する見通しで、厳しい状況が続くと予想している。



サービス業の推移

— 前年同期比 —

採算

<今 期>

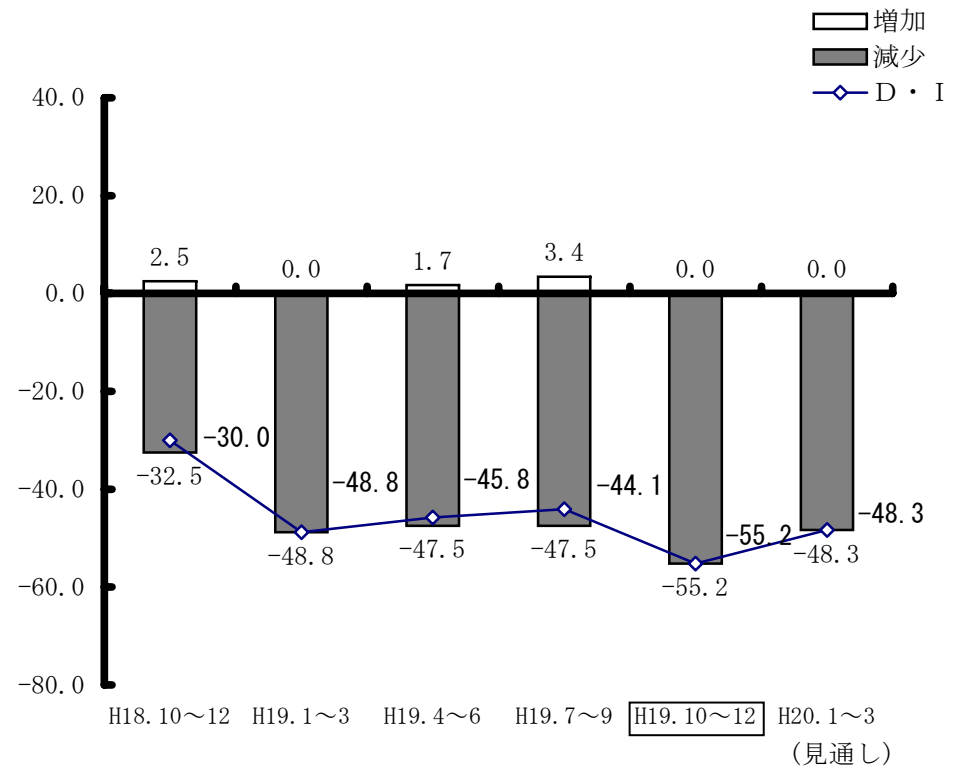


<来期見通し>



サービス業の採算D・Iは、売上と同様に11.1ポイント下降し、依然50を境に横這いで推移している。

来期の見通しについては、6.9ポイント改善するものの、依然として低水準で推移すると見ている。



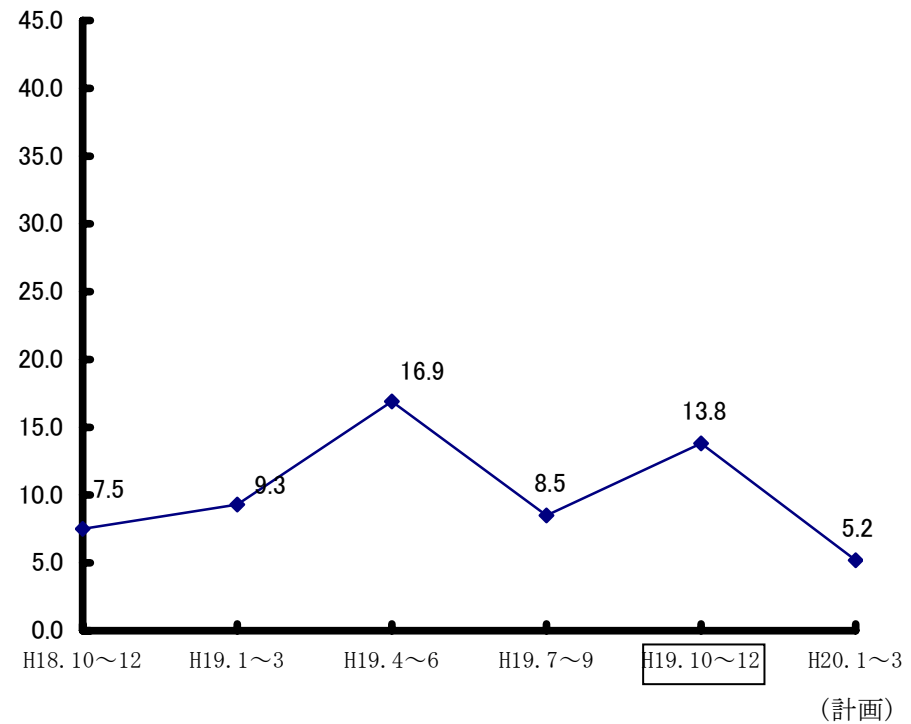
サービス業の推移

— 前年同期比 —

設備投資

サービス業における今期の設備投資は、5.3ポイント改善した。

来期計画は、今期から8.6ポイント低下する見通しにあり、業界の厳しさを反映している。



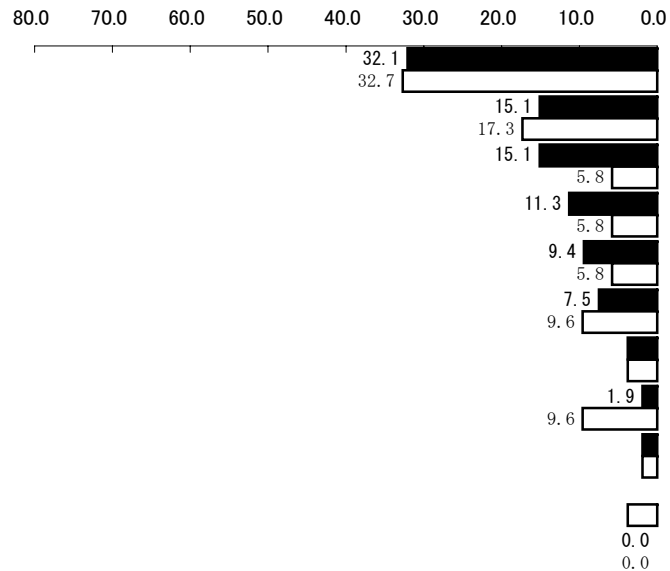
サービス業の推移

経営上の問題点

岩手県 サービス業

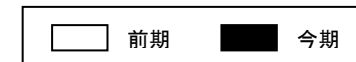
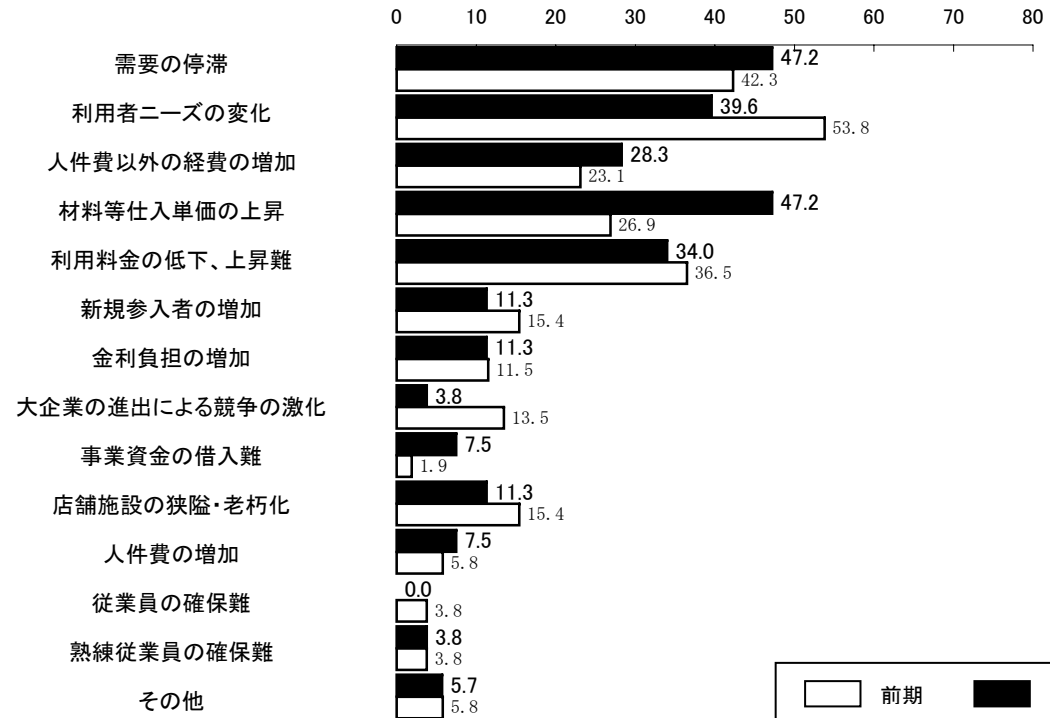
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点



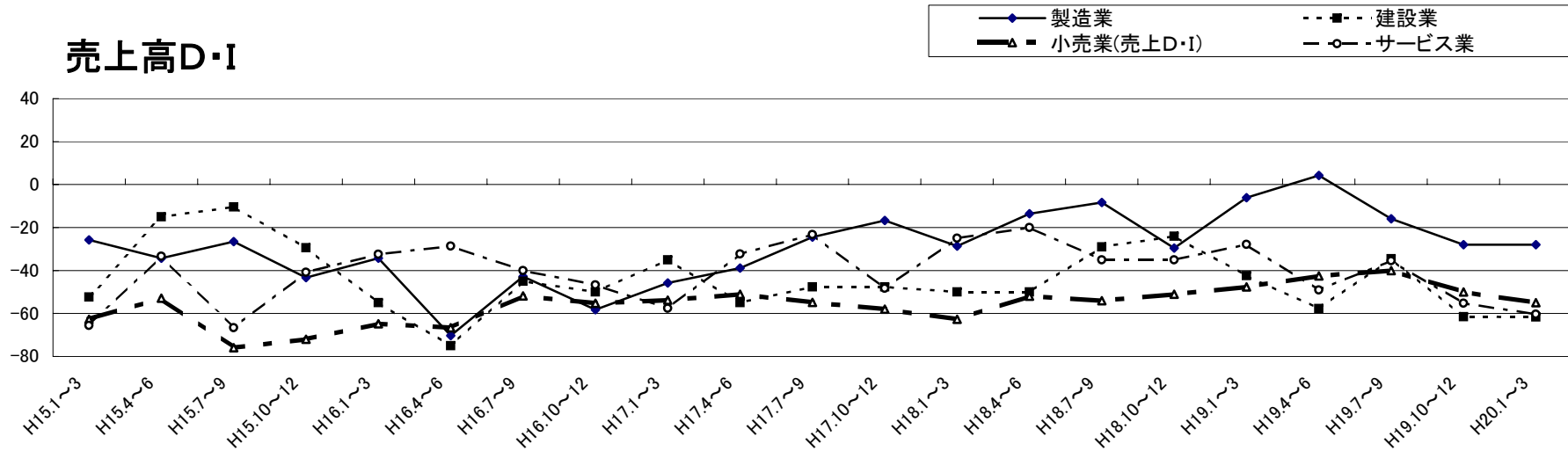
1位~3位の問題点

(目盛: %)

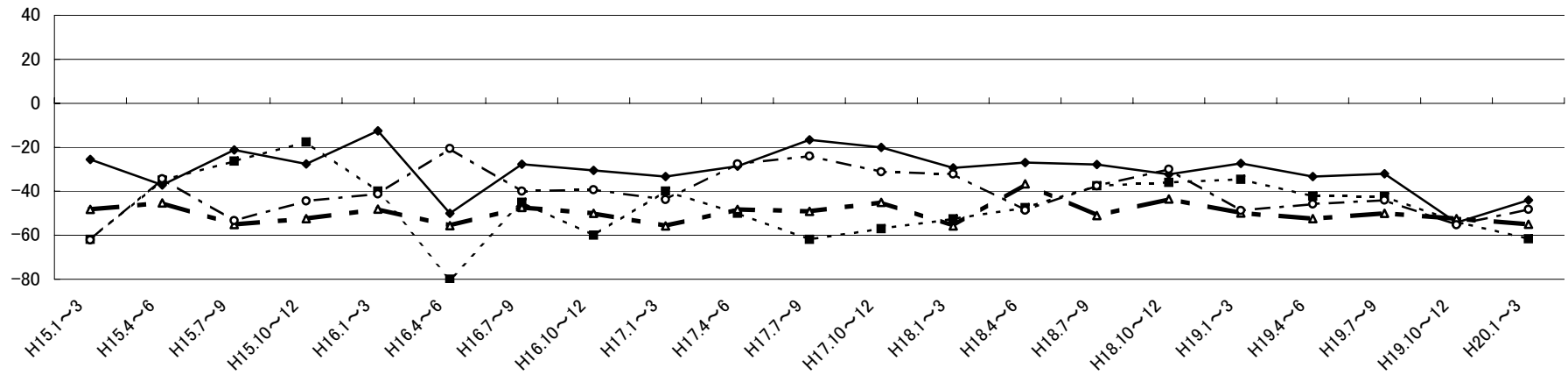


全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 陸前高田、葛巻町、紫波町、大迫、金ヶ崎町、
(商工会名) 衣川、川崎村、大槌、田野畑村、軽米町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 149 企業
2. 調 査 対 象 期 間 平成19年10月～12月を対象とし、調査時点は平成19年11月19日とした。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行った。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行った。

4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)		27 (18.0)	27 (18.1)	100.0
建設業		24 (16.0)	24 (16.1)	100.0
小売業		42 (28.0)	42 (28.2)	100.0
サービス業		57 (38.0)	56 (37.6)	98.2
		150 (100.0)	149 (100.0)	99.3

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものである。